



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月7日  
上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名） 常務取締役（氏名） 村田 隆

TEL 03-5962-7777

四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日 配当支払開始予定日 平成26年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	30,091	3.9	1,394	△15.8	1,270	△18.7	736	△19.1
26年3月期第2四半期	28,951	5.7	1,655	3.8	1,561	2.0	910	17.8

（注）包括利益 27年3月期第2四半期 837百万円（△24.3%） 26年3月期第2四半期 1,105百万円（42.6%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	51.84	—
26年3月期第2四半期	64.05	—

### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	38,996	16,824	43.1
26年3月期	39,686	15,810	39.8

（参考）自己資本 27年3月期第2四半期 16,824百万円 26年3月期 15,810百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	10.00	—	11.00	21.00
27年3月期	—	10.00	—	—	—
27年3月期（予想）	—	—	—	13.00	23.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	4.7	2,890	19.0	2,700	19.5	1,590	25.6	111.89

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 ー社 除外 ー社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	14,211,000株	26年3月期	14,211,000株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	91株	26年3月期	91株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	14,210,909株	26年3月期2Q	14,210,909株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、以下のとおり機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した決算説明資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

平成26年11月21日(金)・・・機関投資家・アナリスト向け第2四半期決算説明会(東京)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日）におけるわが国の経済は、平成26年4月からの消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から改善に向かっているものの、夏場の天候不順が個人消費に影響をあたえるなど、全体として景気の回復は鈍い状態が続いております。また、8月下旬から進行した急速な円安が輸入品や燃料の価格を上昇させ、中小企業や個人の負担増となることが懸念されております。しかしながら、雇用情勢については失業率の低下や賃金の上昇などの改善傾向が続いていることや、企業の設備投資が堅調であることなどを背景に、景気の先行きについては緩やかに回復していくことが期待されております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、平成25年3月期からスタートしました『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』が最終年度を迎え、その指針であります「市場演出型企業としての成長戦略」に基づき、5つの骨子を掲げております。

- (Ⅰ) グローバル企業となる
- (Ⅱ) 事業領域の拡大
- (Ⅲ) 「サラダ料理」の確立・情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践
- (Ⅳ) サラダカフェブランドの推進・浸透
- (Ⅴ) 人材の育成、体制の強化

以上の5つの骨子に基づいた取り組みの成果は次のとおりであります。

平成26年4月17日に「静岡富士山工場」が稼働を開始し、生産効率の向上を図るため、当社の連結子会社である株式会社関東ダイエットエッグ新座工場を平成26年9月26日に集約いたしました。

海外におきましても、経営資源を集中させるため、東莞工場で展開しておりましたサラダの生産・販売機能を中国における主力工場である杭州工場へ統合いたしました。

平成25年9月より発売を開始しました小型形態のロングライフサラダである「サラダのプロがつくった」サラダシリーズの5アイテムについて、コンビニエンスストアや量販店への導入を進めており、10月以降に向けてアイテム数の増加や雑誌とのタイアップ企画を行うなど、更に導入ペースを加速させてまいります。

従来より実施してまいりましたサラダカフェ主催による「サラダ料理講習会」に加えて、ケンコーマヨネーズ主催による第1回「ケンちゃんのサラダ料理教室」を開催し、参加いただいた方にサラダ料理のメニューを提案することで、当社商品の認知度を高める取り組みを始めました。

また、ネット通販の需要が高まっていることを背景として、当社商品を今まで以上にお買い求めやすくするため、当社の通販サイトである「ケンコーマヨネーズオンラインショップ」をリニューアルいたしました。サイトのデザインを一新し、商品ラインナップを拡充することに加え、おすすめレシピも掲載することで、当社商品をお使いいただく際にも参考にしていただけるサイトとしております。

当第2四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

## ① 売上高

売上高につきましては、外食市場において厳しい外部環境にありましたが、従来より進めております分野別・業態別チームを中心に売上拡大に取り組んでまいりました。また、中食市場が拡大していることを背景として、タマゴ加工品を中心にコンビニエンスストア向けで多くの商品を採用いただき、売上高を増加することができました。その結果、前年同四半期対比で増

収を達成するとともに、期初に策定した売上高計画に対して、ほぼ予定どおりの進捗であります。

## ② 利益

利益につきましては、売上高の増加による工場の稼働率アップ等の原価低減やタマゴ加工品を中心に高付加価値商品の需要が高まったことにより、利益の改善を進めてまいりましたが、原材料の調達につきましては、鶏卵相場が依然として高値圏で推移していることや夏場の天候不順により野菜の価格も高騰しており、原材料の調達コストは上昇しております。また、原発問題や円安が進行していること等によるエネルギーコストの上昇や静岡富士山工場の立ち上げ時の一時的な費用が発生したこと等の減益要因がありました。この結果、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益のいずれも前年同四半期を下回りました。

しかしながら、以上の減益要因については、卵価の高騰が想定以上であったことを除いては、期初に策定した収益計画に織り込み済みの内容であり、当連結会計年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日）の連結経常利益予想2,700百万円（前期比19.5%増）、連結当期純利益予想1,590百万円（前期比25.6%増）という利益計画に対して、ほぼ予定どおりの進捗であります。

当第2四半期連結累計期間における連結売上高は30,091百万円（前年同四半期比1,139百万円の増加、3.9%増）、連結営業利益は1,394百万円（前年同四半期比260百万円の減少、15.8%減）、連結経常利益は1,270百万円（前年同四半期比291百万円の減少、18.7%減）、連結四半期純利益は736百万円（前年同四半期比173百万円の減少、19.1%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

### 調味料・加工食品事業

<サラダ・総菜類>につきましては、基盤商品であるポテトサラダが外食向けを中心に新規採用されたことや数量が伸長し、パンプキンサラダは製パン向けに、また小型形態のポテトサラダやゴボウサラダ等がコンビニエンスストア向けに新規採用され伸長しました。更に、オニオンを使用した商品がコンビニエンスストア向け等で伸長し増収に寄与しました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>につきましては、焼き込みパン用としてのマヨネーズの伸長や外食向けにドレッシングが新規採用されました。また、「世界のソース」シリーズでは、新規商品が伸長しましたが外食市場における外部環境により減収となりました。

<タマゴ加工品>につきましては、サンドウィッチ用や焼き込みパン用のタマゴサラダ、薄焼きタマゴや茹で卵等、様々な加工形態の商品がコンビニエンスストア、製パン向けを中心に伸長し大幅な増収となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は24,985百万円、セグメント利益は1,244百万円となりました。

### 総菜関連事業等

売上高につきましては、平成25年12月から開始した北海道エリア限定でのカット野菜が堅調に推移したことや量販店向けに魚・肉類等のレンジアップをする冷惣菜商品の増加により増収となりました。利益につきましては、生産効率・歩留の改善、経費削減等のコストダウンの取り組みを実施しましたが、卵価の高騰影響から原材料費が上昇したこと等により減益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は4,540百万円、セグメント利益は149百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、38,996百万円（前連結会計年度比690百万円の減少、1.7%減）となりました。これは、主に現金及び預金が399百万円減少したこと等によるものであります。

### (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、22,171百万円（前連結会計年度比1,704百万円の減少、7.1%減）となりました。これは、主に長期借入金が436百万円、退職給付に係る負債が543百万円減少したこと等によるものであります。

### (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、16,824百万円（前連結会計年度比1,014百万円の増加、6.4%増）となりました。

### (自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、43.1%（前連結会計年度比3.3ポイント増）となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、3,485百万円（前連結会計年度末比10.3%減）となりました。当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,977百万円（前年同四半期比1,246百万円の増加）となりました。これは、主として税金等調整前四半期純利益1,302百万円等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2,592百万円（前年同四半期比2,069百万円使用資金の増加）となりました。これは、主として有形固定資産の取得による支出2,524百万円等によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、216百万円（前年同四半期比776百万円使用資金の減少）となりました。これは、長期借入金の返済による支出595百万円、割賦取引による収入1,403百万円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法に変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が518百万円減少し、利益剰余金が333百万円増加しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,884	3,485
受取手形及び売掛金	9,008	10,199
商品及び製品	1,275	1,378
仕掛品	12	14
原材料及び貯蔵品	848	916
繰延税金資産	321	317
その他	2,746	1,333
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	18,095	17,643
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,519	6,242
機械装置及び運搬具(純額)	3,396	6,144
土地	4,995	4,995
建設仮勘定	4,619	106
その他(純額)	234	299
有形固定資産合計	17,765	17,788
無形固定資産		
無形固定資産合計	373	364
投資その他の資産		
繰延税金資産	305	47
その他	3,185	3,190
貸倒引当金	△38	△37
投資その他の資産合計	3,452	3,200
固定資産合計	21,590	21,352
資産合計	39,686	38,996

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,083	7,840
1年内返済予定の長期借入金	976	957
未払法人税等	327	587
賞与引当金	386	386
その他の引当金	33	126
その他	6,053	4,526
流動負債合計	14,860	14,425
固定負債		
長期借入金	4,053	3,617
退職給付に係る負債	870	327
その他の引当金	200	220
その他	3,891	3,581
固定負債合計	9,015	7,746
負債合計	23,876	22,171
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	10,739	11,653
自己株式	△0	△0
株主資本合計	15,368	16,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	463	567
為替換算調整勘定	109	81
退職給付に係る調整累計額	△130	△106
その他の包括利益累計額合計	441	542
純資産合計	15,810	16,824
負債純資産合計	39,686	38,996

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	28,951	30,091
売上原価	21,089	22,362
売上総利益	7,862	7,728
販売費及び一般管理費	6,207	6,334
営業利益	1,655	1,394
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	15	14
その他	57	57
営業外収益合計	73	72
営業外費用		
支払利息	36	47
持分法による投資損失	124	138
その他	5	10
営業外費用合計	167	196
経常利益	1,561	1,270
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
補助金収入	—	39
その他	—	0
特別利益合計	1	40
特別損失		
固定資産除却損	4	8
その他	0	0
特別損失合計	5	9
税金等調整前四半期純利益	1,558	1,302
法人税、住民税及び事業税	623	560
法人税等調整額	24	4
法人税等合計	648	565
少数株主損益調整前四半期純利益	910	736
四半期純利益	910	736

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	910	736
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	89	104
退職給付に係る調整額	—	24
持分法適用会社に対する持分相当額	106	△27
その他の包括利益合計	195	100
四半期包括利益	1,105	837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,105	837
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,558	1,302
減価償却費	478	711
引当金の増減額 (△は減少)	130	112
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	13
受取利息及び受取配当金	△16	△15
支払利息	36	47
売上債権の増減額 (△は増加)	383	△1,191
たな卸資産の増減額 (△は増加)	74	△173
仕入債務の増減額 (△は減少)	△660	757
未払金の増減額 (△は減少)	△407	△16
その他	△121	780
小計	1,455	2,329
利息及び配当金の受取額	16	15
利息の支払額	△37	△46
法人税等の支払額	△704	△320
営業活動によるキャッシュ・フロー	730	1,977
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△490	△2,524
無形固定資産の取得による支出	△36	△56
その他	4	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△523	△2,592
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	2,442	140
長期借入金の返済による支出	△991	△595
配当金の支払額	△156	△156
割賦取引による収入	26	1,403
割賦債務の返済による支出	△324	△574
その他	△2	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	993	216
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,200	△399
現金及び現金同等物の期首残高	5,919	3,884
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,119	3,485

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	24,209	4,154	28,363	587	28,951	—	28,951
セグメント間の 内部売上高又は振替高	247	4,418	4,665	—	4,665	△4,665	—
計	24,457	8,572	33,029	587	33,617	△4,665	28,951
セグメント利益又は損失(△)	1,360	331	1,692	△117	1,575	△13	1,561

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△13百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	24,985	4,540	29,526	564	30,091	—	30,091
セグメント間の 内部売上高又は振替高	257	4,039	4,297	—	4,297	△4,297	—
計	25,242	8,580	33,823	564	34,388	△4,297	30,091
セグメント利益又は損失(△)	1,244	149	1,394	△134	1,259	10	1,270

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額10百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。